

2021年7月30日

TSUBASAアライアンス参加行による サステナビリティ・リンク・ローンの取組みについて ～TSUBASAアライアンス連携施策～

武蔵野銀行（頭取 長堀 和正）は、2021年7月30日（金）、TSUBASAアライアンス^{注1}連携施策として、野村不動産ホールディングス株式会社（東京都新宿区、代表取締役社長 沓掛 英二）に対し、同社がサステナビリティ・コーディネーター^{注2}である千葉銀行の支援により制定したサステナビリティ・リンク・ローン・フレームワーク（以下、SLLフレームワーク）に基づき、サステナビリティ・リンク・ローン（以下、SLL）の融資取組みを行いましたので、お知らせします。なお、SLLフレームワークを活用したSLLの取組みは国内初となります。

SLLは、お客さまがSDGsやESGに関連する事業挑戦目標であるサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（以下、SPTs^{注3}）を設定し、その達成状況に応じ、金利など融資条件が変動する仕組みの融資です。金利などの融資条件が変動することで、お客さまの目標達成への動機付けに繋げ、持続可能な企業行動を促進します。

今回のSLLフレームワークは、野村不動産ホールディングス株式会社のSPTs達成に向けた取組みを支援する金融機関を募る同社主導のフレームワークであり、まず第一弾として、TSUBASAアライアンス参加行のうち当行を含む9行が協調して融資を取組みました。

また今後、他の金融機関が同社に対しSLLを取組む際の枠組みとして本SLLフレームワークを活用することにより、その輪を広げていくことが可能になります。

地銀広域連携の枠組みである「TSUBASAアライアンス」では、「TSUBASA SDGs宣言」のもと、事業活動を通じた社会・環境問題の解決に資する取組みを、参加各行との連携を通じて推進しております。本件についても、この連携の成果として、実現に至りました。

当行では、今後も持続可能な地域経済および社会の実現や、脱炭素・気候変動といったグローバルな課題への対応に向け、今後も引き続き積極的に取組んでまいります。

注1 千葉銀行、第四北越銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行、武蔵野銀行、滋賀銀行、琉球銀行、群馬銀行の10行が参加する地銀広域連携の枠組み

注2 サステナビリティ・リンク・ローン商品の組成・設計にあたって、借り手のSPTs設定等を支援する役割。

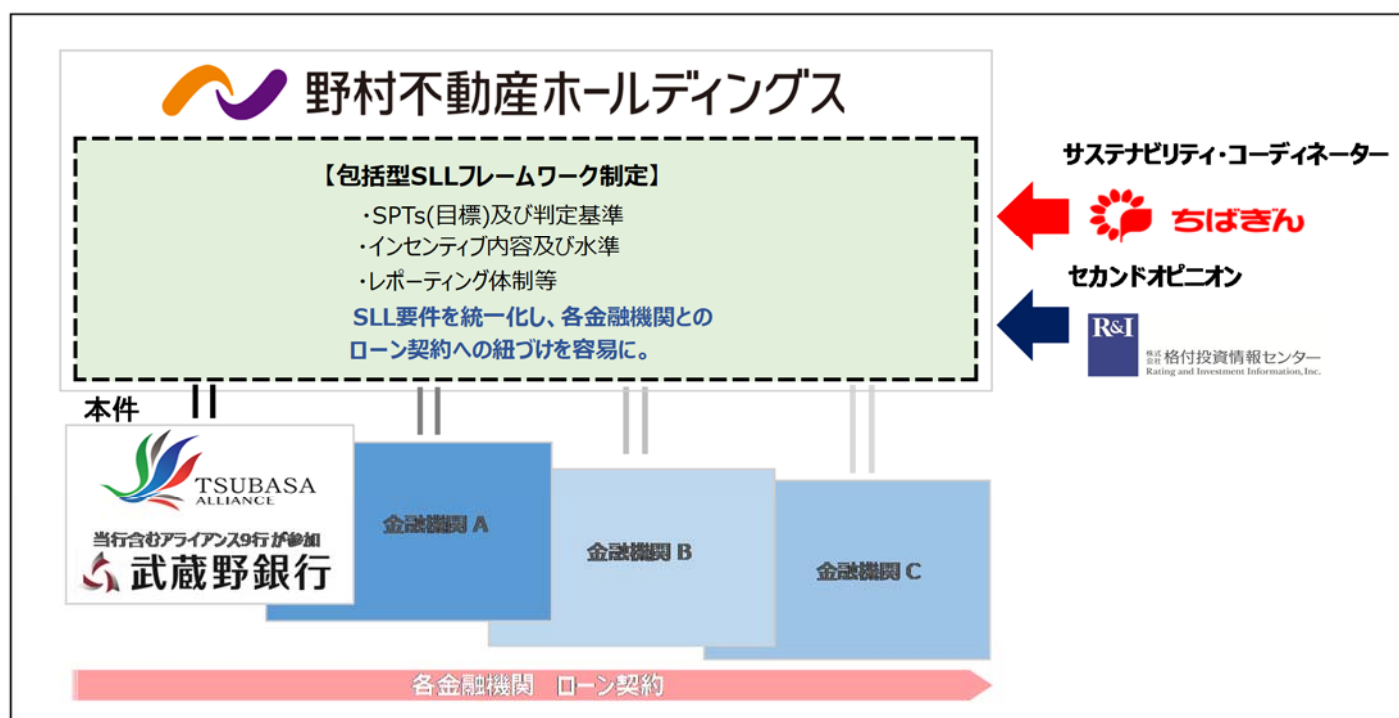
注3 サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲットの略で、環境・社会・経済に対するお客さまの事業活動による影響を考慮した「サステナビリティ戦略」と整合した目標。

次頁へ

《サステナビリティ・リンク・ローンの概要》

借入人	野村不動産ホールディングス株式会社
金融機関 (9行)	武蔵野銀行、千葉銀行、第四北越銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行、滋賀銀行、群馬銀行
実行日	2021年7月30日(金)
SPTs	温室効果ガス総排出量削減目標
第三者意見	株式会社格付投資情報センター
融資総額	9行総額110億円
資金用途	運転資金(リファイナンスを含む)
融資形態	証書貸付

《スキーム図》



以上

報道機関からのお問い合わせ先
ソリューション営業部 法人営業グループ 小山
TEL (048) 641 - 6111 (代) 内線 2572